令和６年度　大阪府立成美高等学校　第１回学校運営協議会議事録

令和６年６月７日

開催条件の確認

＜司会進行＞

本日ご出席を賜りました委員のみなさまは委員定数の過半数を超えていますので、別添資料「学校運営協議会の運営に関する要綱」第 14 条 2 項および、「学校運営協議会実施要項」第 10 条 2 項の規定を満たしております。よって協議会は成立することを認めます。

校長挨拶

◆４月より校長として着任

◆校長として現状の学校にある課題の解決をめざして取り組んでいきたい

協議会委員紹介

○大阪工業大学　教務部　教育センター　特任教授	堂之本　篤弘　様
○堺市立美木多中学校長	鶴山　剛　様
○城山台校区自治連合会　顧問	渡邉　和彦　様
○美木多校区自治連合会　美木多地域歴史資料調査会　事務局長	小林　孝三　様
○大阪府立障がい者交流促進センター　所長	淺井　宏純　様
○大阪府立成美高等学校　ＰＴＡ会長	松戸　格己　様

事務局紹介

○事務局長・教頭	面澤　信義	○事務長	兜　信雄
○首席	青木　恒樹	○首席	園田　大介
○指導教諭	大原　一浩		
○教務主任	谷口　賢也	○生徒指導主事	園田　大介
○進路指導主事	山﨑　永輔		
○学年主任(3 年)	太田　憲央	○学年主任(2 年)	田中　修
○学年主任(1 年)	榊原　真一		

※ただし事務局員以外に説明者を加えることがある

会長・副会長の承認について

＜司会進行＞

立候補がない場合を想定して、事前に事務局から打診させていただいている方がいらっしゃるのですが、会長・副会長に立候補される方はいらっしゃいますでしょうか？

いらっしゃらないようなので、内諾をいただいている堂之本さまに会長を、鶴山さまに副会長を引き受けていただこうと思いますが、ご異議ありませんか？

ご異議なしと認めますので、内諾をいただいた堂之本さまに会長を、鶴山さまに副会長をお願いいたします。１年間どうぞよろしくお願い申し上げます。

令和６年度学校経営計画について

＜堂之本会長＞

それでは協議を始めたいと思います。まず ①令和６年度学校経営計画 について校長先生から説明をお願いします。

＜校長＞

◆「つなぐ」というキーワードを教育の柱として今年度重点的に取り組む項目を説明する

◇授業の視覚化・構造化・協働化
◇生徒に還元できる授業をめざす
◇コアカリキュラムを通して最終的になりたい自分を考えさせる
◇人権教育として様々な背景・ルーツを持った生徒が互いに思いやる気持ちをもつように指導していく
◇生徒が安全で安心な学校生活を送れるように教職員が関わりサポートを行う
◇限界はあるがケース会議や外部機関と連携して最大限生徒の支援を行う
◇校務の効率化をはかるためにまずは会議のペーパーレス化等を計画中

＜堂之本会長＞

ただ今の校長先生の説明についてご質問・ご意見等ありましたら発言をお願いします。

＜小林委員＞

美木多地域の歴史の観点から我々の子ども時代と比べると現代の学校は困難さがある。協議会は課題を学校と地域で共有する重大な役割がある。風通しの良い連携をするために協働していきたい。地域の商店経営者などにも授業で行えることがあれば協力を仰ぐこともできる。

＜堂之本会長＞

成美高校の初代教頭として普通科総合選択制のカリキュラムなど立ち上げに関わった。歴史といえば「成美」の名づけは美木多の歴史からきている。

＜淺井委員＞

成美高校は地元から通う生徒が多い。地域史を知っておくことでよい影響・興味となるのではないかと考えられる。

＜渡邉委員＞

堺の中でも歴史が深い美木多の地域のことも知れば生きていく力に良い効果があるのではないかと思う。

＜堂之本会長＞

「つなぐ」をキーワードとした学校経営計画の中でもとりわけ校長がこの 1 年で力を入れたいところはどこか。

＜校長＞

まず自分を大切にし、周りの人を大切にし、学校生活を大切にしてほしいと伝えている。層が変化した海外ルーツの生徒も含めて卒業後も生きていく力をつけていきたい。様々な支援が必要なケースもあるが必ず次へ繋げるように取り組んでいく。

＜小林委員＞

生きていく力がこれからは核となる。自分で学ぶ力が重要視され、昔のような一斉授業から様々な協働的な深い学びをテーマにした授業形態に移行している。その中でも地域とつなぐような例えば地域の人へのインタビュー等を授業に組み込む等はどうか。

＜校長＞

ペア・グループでのワークは取り入れている。コアカリキュラムで自分を知っていくことがまず大切であると考えており、その一環として外部への調べ学習なども行っている。

＜堂之本会長＞

生徒指導の項目の肯定率が他の項目より低いことが気になる。生徒指導に関して何かあるのか。

＜生徒指導主事＞

生徒・保護者ともにすぐには理解いただけないこともある。時間をかけて先に向けた卒業後就業後に向けた指導であることを理解してもらえるように努力していく。

＜堂之本会長＞

時間外勤務 80 時間以上 8 名は多いと思うがどうか。

＜校長＞

8 名は実人数。少ないとはいえない。

＜堂之本会長＞

改善の取り組みは考えているのかどうか。

＜校長＞

「何か」を減らすための工夫・調査を行っている段階。

＜小林委員＞

勤務時間を守るという意識をもつことが大切かと思う。

＜教頭＞

実情として生徒の層は変化してきており問題行動は年々増えている。8 名は主に生徒指導に関わる教員で生徒・保護者への対応時間の影響で時間外が増えている。そのような教員の他の仕事をヘルプで手伝えるような職場の雰囲気作りをめざして日々取り組んでいる。ただ、職場の慣例を変化させていくのはなかなか難しく時間がかかっている。

本校の現状報告

＜堂之本会長＞

次に ②本校の現状報告 について校長先生から説明をお願いします。

＜校長＞
※別紙２について説明

＜堂之本会長＞
ただ今の校長先生の説明についてご質問・ご意見等ありましたら発言をお願いします。

＜堂之本会長＞
海外ルーツ生の日本語習得は授業など含めてどの程度活動しているのか。
＜校長＞
学校外では生徒によるが授業では７限授業含めて取り組んでいる。
＜指導教諭＞
各学年で週４時間ずつ授業としての時間をとっている。
＜堂之本会長＞
出身ルーツがバラバラでは４月はお互いに話ができない状況かと思う。大変さが感じ取れる。
＜指導教諭＞
通訳など活用して保護者へ話をするなどなんとか対応している現状である。
＜小林委員＞
定員割れが続くと廃校になる恐れがあるが、学校がなくなるというのは地域に文化を発信する役割がなくなるという危険がある。海外ルーツの生徒の母語指導についてはどのように取り組んでいるのか。
＜校長＞
母語に関しては特別非常勤講師に助けていただいている。
＜指導教諭＞
特別非常勤講師は日本語選抜実施 ８ 校で取り合い・調整という状況。ポケトークなどの翻訳機では細かいニュアンスは伝わらないのでやはり母語を話せる講師は重要である。
＜堂之本会長＞
機械だけでは解決できない苦労があると思う。定員割れは募集人数とマッチしていないのではないかとも思うがどうか。
＜教頭＞
今年度に関していえば私立人気によりこれだけ多くの府立高校が定員割れになることをどこも想定していなかったと思う。
＜堂之本会長＞
定員割れを防ぐためにはどうすべきか。
＜淺井委員＞
府内で割れる学校が多いと中学校側で調整しきれないのではないか。
＜堂之本会長＞
募集停止にならないように取り組まなければいけない。

校長お礼

＜堂之本会長＞
いただいている議題については以上ですが、他に協議しておきたいテーマをお持ちの方はいらっしゃいますか？

＜堂之本会長＞

可能であれば 10 月の第二回には授業の見学なども行って生徒のありのままの姿を見せていただければと思う。

＜小林委員＞

様々な学校に関わる団体で協議ができる場があれば有意義な意見交換・相互理解がはかれると思う。

＜堂之本会長＞

ほかにないようですのでこれにて協議を終了いたします。進行を事務局にお返しいたします。

＜司会進行＞

ありがとうございました。では最後に校長から協議会に対するお礼を述べさせていただきます。

＜校長＞

丁寧に協議していただきありがとうございます。いただいたご意見を再度学校で検討させていただきます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

＜司会進行＞

次回協議会の開催につきましては 11 月上旬を予定していますが、委員のみなさまと日程を調整のうえ追ってご連絡いたします。

以上をもちまして 令和 6 年度 第 1 回 学校運営協議会 を終了いたします。ありがとうございました。